

再開後も苦しい経営

コロナで休業 デイサービス

新型コロナウイルスの感染拡大で、全国に緊急事態宣言が出された四月を中心に、デイサービス（通所介護）の休業や利用人数などの縮小が相次いだ。送迎や食事、入浴、機能訓練などで「三密」状態が避けられない上、利用控えなどが重なったためだ。事業者への介護報酬の支払いはサービスを提供した月の翌々月末なため、専門家は六月末以降に経営悪化が顕在化する可能性を指摘し、「倒産や廃業が相次げば、地域の介護基盤が崩壊する」と懸念する。

（五十住和樹）

「両手を横に上げて」。インストラクターの声に合わせ、いすに座った六人のお年寄りが体を動かす。

六月初め、千葉県内にある地域密着型通所介護（小規模デイ）での機能訓練。家庭的な雰囲気が売りのサービスも、感染防止対策でいすの間隔を空け、利用者同士の距離を取るなど様変わりした。

送迎と到着時に職員が利用者の検温と体温をチェック。利用者にマスク着用を促し、一時間ごとに換気する。設備・備品のアルコール消毒なども徹底。二七度以上の発熱がある場合は利用を断つている。職員も検温やうがい、手洗いやマスクの着用を励行。



お互いの間隔を空けて機能訓練をするデイサービスの利用者たち=千葉県で

利用者減、3密対策に苦心

「これだけ手を打つても、運営会社の男性社長（四〇）の不安は消えない。「マスク着用や、うがい・手洗いがうまくできない認知症の人もいる。

今月末に顕在化か

の「デイサービスで感染者が発生したこと」。調べると掛け持ちの利用者が二人いることが

していないのに休業したこと

に、「預け先がなくなる」と

利用者の家族やケアマネジャー

行政の指示や支援もなく、継続は困難として、五月底までの休業を決めた。感染者を出されたりする人もいた。

しかし、休業前後で利用者が約三割減るなど、経営へのダメージは深刻だ。送迎車などのリース代、また借入金返済もかさみ、資金繰りに追われている。

コロナ禍で収入が減った家族からは、「利用料の支払いを待ってほしい」の声も。事業者だけでなく、利用者の家族の危機感も強まっている。

この小規模デイは定員十人で、職員は十二人。感染者は出ていないが、四月中旬から出でた。一方月半の休業・営業縮小による影響が経営に影響した事業所は通所介護が最も多く、六百六十事業所の90・8%に達した。二月と四月の売り上

げを比較し、二割以上減収した事業所は33・8%。「自己資金が枯渇した」「支援が手薄で融資返済が滞る」などの声があり、利用者が減り閉鎖した事業所もある。

高野さんは「公費による減収の補填や、運営費の無利子貸付けなど支援を早急に行う必要がある」と話す。

分かった。

一から不満が出たといつ。

職員も利用者も感染から守

るために、六月の再開後は職員ではなく、保健所も「濃厚接触者

触者でなければ、受け入れても構わない」。しかし、職員から「二週間は遠慮してもらるべきだ」との声が出て、三

人の入浴介助を渡り、入浴サービスは中止に。七十歳前後の職員が五人いて、「感染が怖い」と休暇を申し出したり、退職したりする人もいた。

医師が許可するか、解熱後一週間経過するまで出勤停止③

五度以上の発熱がある場合は濃厚接触者でなければ利用者は通常通り受け入れるなど

だ。しかし、休業前後で利用者が約三割減るなど、経営へのダメージは深刻だ。送迎車などのリース代、また借入金返済もかさみ、資金繰りに追

われている。

コロナ禍で収入が減った家族からは、「利用料の支払いを待ってほしい」の声も。事業者だけでなく、利用者の家族の危機感も強まっている。

この小規模デイは定員十人で、職員は十二人。感染者は出ていないが、四月中旬から出でた。一方月半の休業・営業縮小による影響が経営に影響した事業所は通所介護が最も多く、六百六十事業所の90・8%に達した。二月と四月の売り上